

# 飲水思源

町長 松岡市郎

## 反省…お土産は軽い方がいい

「挨拶は短く、ためになる話が良い」「人生と友情は長いほうが良い」という言葉があり、誰もが自然に納得する。「長いのはためになる話が濁る」という。『ため』が濁って『だめ』な話になってしまい、聞き手にとって無駄な話を聞くことになるからである。

ひがしかわ東京会でのお話である。毎年開催されて今回は12回目となった。毎回参加いただいている方々も12年の歳月が等しく加算されている。80歳を回った人も来てくれ、激励してくれる。ありがたいことである。

参加いただいた方々には郷土自慢の特産品として東川米、旭岳源水、東川から発信した本などをお持ち帰りいただいているのだが、「町長、米、水、本はどれも重い。持ち帰るのが大変な年齢になった。お土産は軽いものが良い」という。半分本音、半分冗談話でもある。「一番軽く、安いお土産は町長の話」だという。お土産も重い、町長の話も重く、もっと軽い話を、と示唆してくれているのかも知れない。

ある意味、本音のようにも感じ、長老のご教示は重さを感じる。

いつも固く重い話しかできず、ある会議では「挨拶の後堅苦しい」とお叱りをちょうだいしたこともある。短い話と心掛けているつもりではあるが、お客さまの重要な時間を、ためにならない無駄話で奪ってしまい、ご迷惑をおかけしている。伝えたい話を簡潔にまとめて、分かりやすく楽しくお話しすることは町長の最も大切な役割である。お土産は本当に喜んでいただけるものでなければならぬ。参加者への心配りが必要であると気づく。

行政の目配り、心配りは、老若男女なのだ。時には重く固い話も必要な場合があるが、一般的な歓迎や町の紹介などは「短く、軽く、明るく」が一番なのである。これが一番重い課題で、日々訓練の積み重ねと世代への配慮が必要であると反省する。

長老のご教示に深く感謝申し上げるのみである。「一番軽く有難い土産は町長の話」を肝に銘じたい。

## 北海タイムス物語 (一般書)

増田俊也:著 新潮社:刊



全国紙の採用試験にすべて落ち、北海道の名門日刊紙、北海タイムスに入社した野々村巡洋。緑もゆかりもない土地、地味な仕事、同業他社の6分の1の給料に4倍の就労時間、という衝撃の労働環境に打ちのめされるが…。会社存続の危機に、やる気ゼロだった野々村が立ち上がる! かつて実在した新聞社を舞台に、新入社員の成長を描く熱血お仕事小説。

## ゴーストバスターズ(2016年) (DVD)

ソニー・ピクチャーズ エンターテインメント:発売元



コロンビア大学の物理学博士、エリンは、世界初の心霊現象の科学的立証のため、日夜研究を重ねていた。ある日、旧友アビーが自分と共同発表した幽霊研究本を承諾もなく電子書籍化しているのを発見し、抗議に向う。そしてなぜか一緒に幽霊騒動屋敷を調査する羽目に。さらにその調査が原因で、大学を一方的に解雇されてしまう。行き場をなくしたエリンはアビーとともに幽霊退治を行う会社を起業する。(116分)

## 貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館  
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★  
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



## わたしのそばできいて (絵本)

リサ・パップ:作 WAVE出版:刊



マディは字を読むのがだいっきらい。とくにきらいなのは、みんなの前で声を出して本を読まなきゃいけない国語の時間。頑張っても、つかえるとみんながくすくす笑うので、だんだん自信をなくしてしまいます。土曜日、ママがマディを図書館につれだしました。そこにいたのは、真っ白でふわふわの大きな犬! マディは犬に本を読んでもあげてほしいと頼まれます。